北部保健所(宇佐・高田地区)の感染症情報

2025年　第26週（6月23日～6月29日）

水痘(水ぼうそう)の報告があります。(2.00人/定点医療機関あたり)

水痘(すいとう)とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる、かゆみを伴う発しんが全身に出現する感染症です。空気感染、飛まつ感染、接触感染により広がり、その潜伏期間は感染から2週間程度(10日～21日)と言われています。発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑(皮膚の表面が赤くなること)から始まり、水疱、膿疱(粘度のある液体が含まれる水疱)を経て痂皮化(かさぶたになること)して治癒するとされています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。(2.33人/定点医療機関あたり)

A群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症で、小児に多い急性の咽頭炎です。潜伏期間は2～5日とされ、手指や飛沫を介して感染します。高熱とのどの痛みで始まり全身に赤い発疹が広がります。合併症として肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などを起こすことがありますので、注意が必要です。初期症状は風邪に似ていますが、ウイルス性の風邪とは違い、抗生物質がよく効きますので、薬をきちんと服用して、除菌することが大切です。

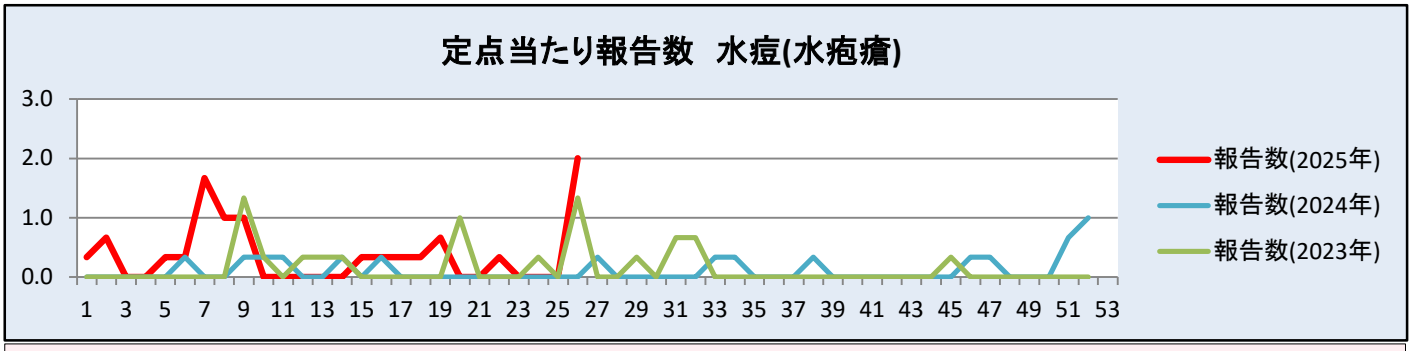
百日咳に注意しましょう。(北部保健所管内から3件の報告があります。)

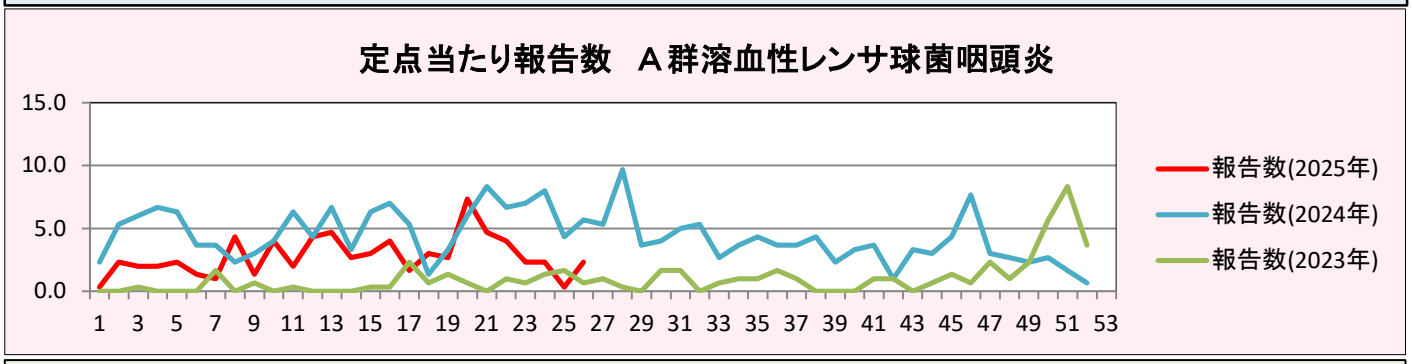
百日咳は小児に多くみられ、重症化しやすく、特に1歳以下の乳児には注意が必要な感染症です。
通常7～10日間の潜伏期間を経て、臨床経過は、普通のかぜ症状で始まる「カタル期」(約2週間持続)、特徴のある発作性のけいれん性の咳(痙咳、けいがい)がでる「痙咳期」(約2～3週間持続)、激しい発作性の痙咳が減衰し、回復へ向かう「回復期」(2、3週～)に分けられます。成人の百日咳では咳が長期にわたって持続し、典型的な発作性の咳嗽(がいそう)を示すことなく、回復に向かうことが多いですが、菌の排出があるため、注意が必要です。

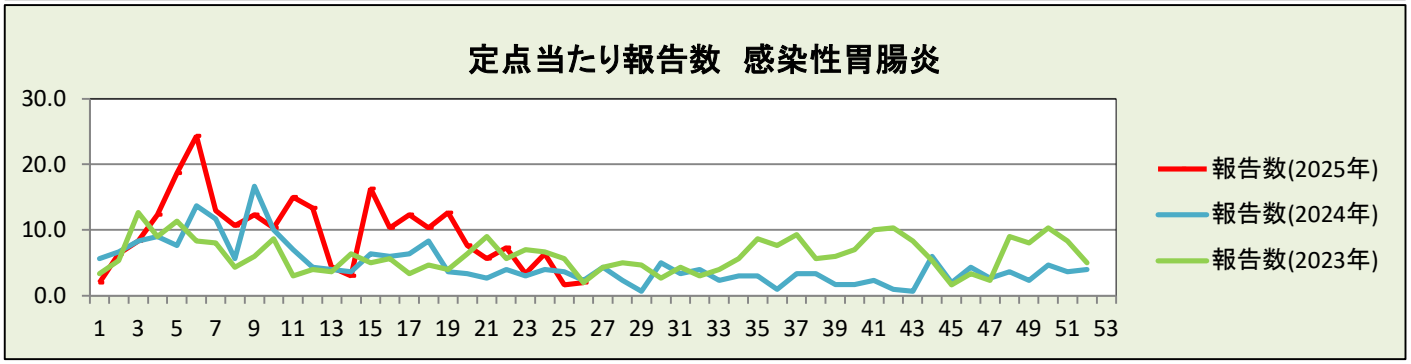
百日咳の治療には、一般的に生後6か月以上の患者において、マクロライド系の抗菌薬が用いられ、特に初期の「カタル期」において有効とされています。主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染ですが、接触感染にも注意が必要です。咳が出るときはマスクを着用するなど咳エチケットを徹底することのほか、手指消毒・手洗いの励行など基本的な感染対策が大切です。また、予防接種が重要であり、生後2月以降に計4回、定期接種である五種(四種)混合ワクチンの接種を行いましょう。予防接種を行うことで重症化を防ぐことができます。

	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（みずぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎
	A型	B型	不明												
0歳															
1～3歳		0.40					0.67	0.33	0.33	0.33					
4～6歳		0.20					0.67	0.67							
7～9歳							0.33	0.33	1.33						
10～14歳			0.20	0.20			0.67	0.67	0.33						
15～19歳															
20歳以上		0.20		0.80											
計		0.80	0.20	1.00			2.33	2.00	2.00	0.33					
	1.00														
70歳以上（再掲）															
前週		0.80		0.60			0.33	1.67					0.67		
	0.80														

※指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上(定点医療機関数　インフルエンザ／COVID-19定点5、小児科定点3)
※端数処理のため、合計と年齢ごとの数値は一致しないことがあります。







疾患ごとの警報・注意報の基準値は以下のとおりです。

症状	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	－
感染性胃腸炎	20	12	－
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	－
伝染性紅斑	2	1	－
ヘルパンギーナ	6	2	－
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	－
流行性角結膜炎	8	4	－

・「警報」：大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指します。
・「注意報」：流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、
流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

お問い合わせ　北部保健所　0979-22-2210　a12089@pref.oita.lg.jp
豊後高田保健部　0978-22-3165